

2024.3.5

かわいたかのり組織内参議院議員、予算委員会で質疑！！

「年収の壁対策」「適正な価格転嫁(労務費を含む)」「ドラッグラグ・ロスの解消」について、総理の認識を問いました。

<https://youtu.be/JYcq7jDiI-I>

かわいたかのり組織内参議院議員 発言抜粋

「年収の壁対策(支援強化パッケージ)について」



- 厚労省は政府の支援強化パッケージを活用して、14万4千人の方が「年収の壁」を超えると見込み、他にも壁を意識して就労している方が60万人いると発表しています。他方、野村総合研究所のデータでは、130万円未満のパートタイム労働者は655万人いるとされています。また、内閣府の調査によると、仕事時間を増やせる人は男女合計で265万人いるとされています。こうした点を踏まえて、厚労省が示した60万人という試算については、疑問を持たざるを得ないことを指摘しました。
- 支援強化パッケージの活用について、働く側からは「会社に活用する気がない場合、従業員の意思だけでは決められない」、一方で企業側からは「2年で終わる可能性がある支援制度には安易に乗れない」との声があると指摘した上で、支援強化パッケージの暫定措置終了後の対策を早期に示すよう訴えました。
- 政府として、「年収の壁」を越えて働くことのメリットとデメリットに関する広報活動を強化していくよう求めました。

「労務費を含む適正な価格転嫁、及び、適正取引について」

- 価格転嫁の一連の取り組みを推進するこのタイミングで、取引慣行にも光を当てて公正な取引を推進し、適正な価格を目指すことが非常に重要であると訴えました。
- 食品業界の取引慣習である賞味期限の3分の1ルールについては、食品ロスをはじめ様々な問題が生じていることを指摘し、取引慣行の是正に向けて業界間の自主規制と同時に調査機関である公正取引委員会も積極的に関与するよう訴えました。

「ドラッグラグ・ロスの解消」

- 日本の医薬品市場では、未承認・未開発の医薬品（ドラッグラグ・ロス）の割合が欧米に比べて高い状況である点、また、革新的な新薬（イノベティブ新薬）の薬価についても、欧米に比べて低い水準にある点を指摘しました。
- ヨーロッパ各国も日本と同様に政府が医療用医薬品価格（薬価）を決める方式を採用していますが、それにも関わらず、日本の薬価は相当に低い状況であることも指摘しました。
- 良質で安価な医薬品を国民に提供するためのジェネリック医薬品の使用促進については理解をするが、そもそも新薬がなければ後発医薬品も存在しないため、後発医薬品のみを使用することは医薬品企業にとって新薬を開発する能力を低下させる可能性があることを訴えました。
- 日本における医薬品の輸入超過額は2022年には4.6兆円に達し、輸出を輸入が大幅に上回る状況であることを指摘しました。
- これまで、社会保障給付費の削減が行われているが、削減分のうち約4分の3は中間年薬価改定等に基づく薬価の引き下げによるものであることを指摘しました。
- 新薬開発を含めたものづくり産業の強化を図り、国際競争力を高めることが医薬品業界にとって重要であることを訴えました。